

令和3年8月20日

# 二宮町教育委員会議録

( 定例会・臨時会 )

二宮町教育委員会

- 1 開会時間 9時30分
- 2 閉会時間 11時30分
- 3 教育長名 森 英夫
- 4 署名委員 渡辺 優子
- 5 教育長及び委員

出欠席	職名	氏名
○	教育長	森 英夫
○	教育委員 教育長職務代理者	渡辺 優子
○	教育委員	野谷 悦
○	教育委員	岡野 敏彦
○	教育委員	山内 みどり

- 6 出席者氏名
- |                   |       |
|-------------------|-------|
| 教育部長              | 黒石 徳子 |
| 教育総務課長            | 下條 博史 |
| 教育総務課長代理          | 田中 明夫 |
| 教育総務課指導班長         | 安藤 通晃 |
| 教育総務課GIGAスクール担当班長 | 岩崎 稔史 |
| 教育総務課教育総務班主査      | 添田 理代 |
- 7 傍聴者 2名
- 8 調製者 教育総務課教育総務班主査 添田 理代

## 1 開会宣言

(教育長) 令和3年度8月定例教育委員会議を開催します。

## 2 署名委員の氏名

渡辺委員を指名する。

## 3 教育長事務報告

(教育長) 教育長事務報告を資料に基づいて行う。

(教育部長) 8月政策会議報告を資料に基づいて行う。

(各課長) 各課の事務報告・事業予定について資料に基づいて説明する。

- (渡辺委員) コロナの感染が非常に増えている、と報道でも聞いているのですが、感染の年齢層は出ているのでしょうか。また、子どもの感染も増えているのか、お願いします。
- (教育総務課長) 報道や神奈川県ホームページを見ている限りですが、やはり高齢者層が激減しているというのは報道にある通りで、二宮町の高齢者層はあまり出ていない状況です。やはり気になるのが20代から50代の方が結構出ていて、恐らくそのお子さんだと思われる10歳未満のお子さんも何人か出ている、という状況です。
- (山内委員) ラディアンで開催された「ガラスのうさぎ像平和と友情のつどい」を見に行ってきました。ホールでの演奏や高木敏子先生が来賓で来てくださった時のような以前のイベントに比べると、この時代なので仕方がないことですが、寂しさを感じました。町にとって平和教育に繋がるイベントが2年連続で開催できなかったということは、たいへん残念に思います。是非できる時になったら、以前のような形で開催をお願いします。一方で、ホールでイベントが出来なかった代わりに小学校でビデオを見た、とお聞きしました。この工夫はたいへん良かったと思いますし、今年としては出来る精一杯をした、と思いました。

先程の山田貞二先生のオンラインのメリットを感じられたということ、安藤先生もお話になりましたけれども、本当に致し方ないな、という感じがします。保護者の方からもオンライン授業は検討出来ないのか、という声も上がってきそうな気がします。私も自分の職場の大学でオンラインレッスンや授業を取り入れるようになり、そのメリットも感じています。対面とオンラインを上手く取り込んで行けば効果が上がると思うので、出来るだけ前向きにオンラインを活用していく形になっていくといいな、と思います。

三点目は成人祝賀会のことです。実行委員会の方の意見を取り込んだ上で中止となった経緯がありましたが、見方を変えれば将来の思い出になっていくと思いますので、話し合いながらのプロセスで決められて良かった、と感じました。

- (教育長) 成人祝賀のイベントは、実行委員と生涯学習課が何回も協議を重ねていただ

きましたが、結果として残念なことではありました。今回のマグカップは、全員に郵送する手配をし、9月中旬から下旬に郵送が出来る予定です。先生など縁のある方からのメッセージを入れる案もあります。

- （岡野委員） 小中一貫のカリキュラムづくりで、算数の文章問題が苦手ということですが、国語と社会の二つについて、子どもたちはどういったことが苦手なのか具体的にあれば教えてください。
- （教育総務課長代理） 算数科の文章問題が全般的に苦手というところで、まだ社会は分科会の報告書が上がっていないので、今回どのような話があったかは把握していません。国語については、『読む』『書く』という基本的な力のところで、最近の子どもたちは結構対話はできるようになってきた、という話は出ています。その一方で文章が書けない、という話が挙がっています。文章の書き方を型で指導していく、という流れもありますが、そうすると逆に子どもたちが自由に書けなくなっている、という課題も出ています。やはり話す、読む、書くを含めて、全ての能力を指導していかななくてはいけない、というところは、課題として挙がってきているところです。
- （教育長） 国語の読解力については、一昨年前に山西小学校が国語の研究をしていました。当時の講師から、助詞の扱いが丁寧ではない、と指摘を受けたというのを、研究会の中で聞いていました。読解力は、文節を繋ぐ助詞である『に』『は』『の』などの意味を理解できていないと、どうしても全体が読めてこないのが、リーディングスキルテストの導入を検討してもらえるといい、と思っています。ただ、お金が掛かることなので早計には出来ないのですけれども、学校の先生と国語のワーキンググループで相談出来ればいい、と思っております。

#### 4 付議事項

##### （1）議案第8号 学校運営協議会委員の委嘱について

（教育総務課長）学校運営協議会委員の委嘱について資料に基づいて説明

意見等なし

（教育長） 委員に議案第8号について諮る。

委員全員賛成により、議案第8号は承認される。

##### （2）議案第9号 令和4年度小・中学校使用学校教育法附則第9条による教科用図書採択について

（教育総務課長）令和4年度小・中学校使用学校教育法附則第9条による教科用図書採択について資料に基づいて説明

意見等なし

(教育長) 委員に議案第9号について諮る。

委員全員賛成により、議案第9号は承認される。

## 5 報告・協議事項

### (1) 二宮町教育委員会点検及び評価報告書(案)について

(教育総務課長) 二宮町教育委員会点検及び評価報告書(案)について資料に基づいて説明。

(野谷委員) 追加の修正案を資料に基づいて説明。

- (教育長) コミュニティ・スクールの調整の特化となると、コーディネーターなどになってくる気がします。教諭側からこういったことをしたいんだけど、となっているところを即座にくみ取っていただき、コーディネーターさん、運営委員さん、推進委員さんがすぐに動いて実行していただき、どんどん実践できている、というのを聞きました。また、運営協議会のHPも実際に委員さんが持ち込んでいる、などを聞きますので地域の方の力を有効に活用させていただけるとありがたいです。専属のコーディネーターだけの教員が配置出来れば本当にありがたいところですが、今は財政的に難しい状況です。
- (野谷委員) 私の念頭にあるのは、非常勤です。一色小学校のように初年で学年一人、という配置の中では、教科書を回していくのが本当に精一杯の印象を受けます。例えば、社会科の地域学習では、回る場所や地域での交渉というのは、ベテランの先生でも一人でやっていくのは厳しい、と思います。地域を活用するという意味で、地域の活動でこんなことがあるよ、と先生と話し合い、学習をサポートする人、地域と結びつく人、そういう人を得ることが出来ないか、とイメージしています。どんなに優秀でも保護者や地域の方の立場では出来ない、と私は考えます。
- (山内委員) 現在とても推進されているのは、一色小学校と二宮中学校です。一色小学校は、メディアにも取り上げていただけるような評価されるべき活動だと思っています。共通しているのはCSと先生がとても強い信頼関係にあり、関係者がスムーズに学校へ入っています。一色小学校の場合は、再生協議会が出来てから、地域の方が入っていくような体制があった上で、活動が盛んになっているというのがあり、双方から組んだところが良好な連携が築かれていると感じます。学校現場のニーズと地域の人材を結ぶ、コーディネーターが必要だと強く感じます。
- (教育総務課長) 現場に先生がもう一人いればいい、というのは私たちもそうです。ただ、それが難しい中で何が出来るかと考えた時に、例として二宮中学校の松本校長に聞くと、会長さんの行動に対して学校が何か迷惑を被っていることは、一切無いです。率先してやってくれますし、全て生徒のためになることばかりなので、本当に助かっています、という言い方でした。また、一色小学校の橋本会長さんとのお話しの中で印象に残ってい

るのは、先生でなければできないことはあるけど、何が必要なかを聞いていく姿勢がCS側にも必要だよ、とおっしゃっていました。先生でなければコーディネートできない、と割り切ってしまうと、地域の方と関わっていく一般教諭は、結局管理職が勝手にコーディネートしてくれている状況になってしまうため、やはり自分でコーディネートしていく、という意識も必要だと思います。そのために地域の協働活動推進委員がいるので、もう少し歩み寄れたらいいな、と思っています。

- （教育長） コミュニティ・スクールを運営する一番の大本には、教育課程を地域に開かなければいけない、開かれた教育課程ということで、学校が何を今勉強させているかという、教育課程の中身自体を運営協議会の方を中心に地域の方に知っていただいて、これだったら地域で出来る人がいるよ、みたいなことが、どんどん言われてきているな、と思っています。二宮小学校においては、地域の方がボランティア募集するとぞくぞくと集まり始めておりますので、これから進んで行かろう、と期待はしているところです。確かに町の人が入ればいいな、と常々思っているのですが、これまでの状況を見ると、支援員さんの加配が十分出来ているからこそ今の二宮町の小学校、中学校が成り立っているのです、人を寄越せと言うと、支援員はいらないですね、ということになりかねません。その板挟みになっているのが実態です。そして支援級、或いは支援教育を必要とする子が非常に増えていますので、今の体制で頑張っていかなければいけない、と思っています。学校にとって何が一番いいのかを考えながら、予算を計上していきたいと思っています。
- （山内委員） 何か月か前にコーディネーターが決まりました、と報告を受けた記憶がありますが、どういうコーディネーターでしょうか。
- （教育総務課長代理） 小中一貫関係で学校間の体験等を今年度に行っていたりするので、その日取りの調整等をする職員を校内で決めて、小中一貫教育のコーディネーターという形でやっています。
- （山内委員） 今ご尽力くださっている方々が、自分の子どもたちが卒業した後もそれを続けていってくださる。地域の方々が自然に協力、奉仕してくださる形になれば、それが本当のCSだと思います。
- （野谷委員） コミュニティ・スクールをさらに充実させるという意味では、地域学校活動支援推進委員プラス学校側の役割の方が欲しい、そういう理屈です。とりわけ一色小学校支援という意味では、問題になっている学年の対応にはならないと思うんです。ですが、学校全体の人数が少ななので、学校への支援という意味で、特例的にでも臨時措置は出来ないものなのか、ということです。
- （教育総務課長代理） 一色小学校は、教頭先生から地域協働活動推進委員の方及び加配が入ることによって、非常に助かっている、というところは教育委員会でも聞いています。今後は如何に学校と地域が連携をしていくかですが、元教員の立場で言いますと、地域の方に入ってきていただいて、先生方の仕事を減らせるかというところでは、例えば教頭先生の仕事がすごく減る反面、逆に地域の方がこれは学校がやってくれる、と思ってしまう

かなというところもあります。そこは慎重に地域の方と学校で連携しつつ、徐々に地域の方が学校の方に入っていただいて、より地域の方が学校に入る組織づくりが出来れば、と思いました。今後、学校の負担を減らせるように考えていかないとけないと思います。

○（教育長） 特に一色小学校は、年度当初から学校経営支援ということで加配を一人もらっていました。今年度は学校経営支援があるため、付ける事は無理だろうとされていた、学級運営改善非常勤を中教育事務所と県で用意していただき、二学期の途中から新たな加配が配置させていただけることになりました。

○（野谷委員） またこういう機会に出していきたいと思います。

○（岡野委員） 点検評価のポイントは、やったことは自信を持ってやりましたと言いましょ、というのが根底にあると思います。ただ、具体的にこれとこれをやったからAなんです、ということと言えるとすごく良いと感じたので、修正希望を出しました。

もう一つは、結局PDCAのサイクルの今どこにいるかが分かることが必要だと思います。何かをするための計画を立案することが出来た、計画に沿って実行できた、その次の課題が浮かび上がった、それを受けて次のアクションを決めることが出来た、そういうステップがどこかに書かれているといいな、と感じました。特に学校ホームページの総アクセス45万件という数字は、一つの達成目標の程度を物語っています。45万件というのは、ただの管理項目なので達成して何が出来たのかというところが、地域に開かれた学校ということのを定着させるための基盤として、情報発信の土台ができた、という風に捉えればいいと思います。その部分をきちんと文章として書いて成果として残しておく、そこが大事なのかなと感じました。数字は目標値ではなくて、ただの管理目標値だと思うんです。その代わり、達成した暁にはこういうことが出来るようになりますという風に、上位概念の言葉で達成できたことを表現することが大事だと思います。

## （2）コミュニティ・スクールの運営状況について

（教育総務課長） コミュニティ・スクールの運営状況について資料に基づいて説明。

○（山内委員） 二宮小学校の人材バンクの集まりがあつた時、前任の和田校長先生だったので何年の6月なのか明記した方が良いでしょう。

○（教育総務課長） 今年の内容になっていませんか。

○（山内委員） 前任の和田校長先生のと時の内容です。この7年間なのか今年1年なのか、いつ頃の取り組みの範囲なのでしょう。

○（教育総務課長） 訂正します。

○（山内委員） 二宮中学校の一番下の欄について、地域と繋がりたい人の発掘というのは、学校と繋がりたい地域の人という理解よろしいでしょうか。

○（教育総務課長） 午後までに確認します。

- （渡辺委員） コミュニティ・スクールのことで、山西小学校の推進委員さんと情報共有をさせていただきました。山西小学校は見守りが中心で、他の学校に比べて活発化してないところが課題としてありました。大きな一歩として、学習支援を担当する先生はその人という風に、窓口が決まったと推進委員さんがおっしゃっていました。専任ではなく学年主任の方なので、先生の負担を減らすというところにまだ繋がっていないけれども、窓口が出来て、どの先生がどういうサポートを必要としているのかを少し話せるようになってきました。また、夏休み中に先生を訪問して、何年何組の先生はこういうことを必要としている、という話をしました。それが、2年生の生活の授業に昆虫の先生を呼んで授業をする、ということに繋がっています。先生と地域側の交流と支えられる関係性づくりで、今は推進委員さんのマンパワーで動いているところになるのですが、その関係性が上手くいってくると、先生方ももっと柔軟にこういうことをもっと助けてほしいんだよね、と言い合える関係性になるまで少し時間が必要だな、とも聞いています。山西小学校は一歩ずつ進んでいる印象は受けたので、引き続き推進委員さんと担当の先生方との交流を含めて、連携が進んでいけたらいいな、とすごく感じました。
- （教育長） 地域の方を取り込んだ事業ということですが、社会教育委員の一色先生にリトミックを使った道德の授業を小学校の低学年を中心に授業をしていただく取り組みがありました。山西小学校とユニクロとのコラボでいろいろなことを模索してやっているということで、研究の先頭をきっているというところですよ。

### （3）通学路緊急点検について

（教育総務課長）通学路緊急点検について資料に基づいて説明。

意見等なし

- （教育長） 八街市の件は、非常に悲惨な事故でした。道路の幅から無理だということもある訳ですが、八街市で議論された中には、物理的に無理であれば速度制限を加える、路面に凸凹を入れて物理的に速度が落ちるように工夫をするなどが検討された、と聞いています。一色小学校は小田原厚木道路の出入口の近くのため、一方通行については警察との判断の中で厳しい、とのことでした。車の通行量は学校も認識していますので、子どもたちには一層の注意喚起をして、事故の無いようにと思っております。

### （5）その他

#### 一 次回教育委員会予定 一

（G I G Aスクール担当班長）次回教育委員会議の日程及び出席を要する主な行事について説明。

－ 傍聴者退席 －

5 報告・協議事項

(4) 教育相談および教育支援室の状況について

－ 非公開 －

4 付議事項

(3) 議案第10号 令和3年度二宮町一般会計補正予算（第6号補正）について

－ 非公開 －

11時30分 閉会